

21世紀の安全を創造する 中日COHSMS

2005年(平成17年)1月1日運用開始

全員参加の安全衛生活動

一滴の雫が大きな輪に



中日建設株式会社

中日COHSMS

目次

- 1 はじめに
- 2 労働安全衛生マネジメントシステムとは
(建災防COHSMSガイドライン)
- 3 システム導入・構築目的と、メリット
- 4 システム概要とシステムの文書体系
- 5 方針管理の仕組と日常改善活動
- 6 危険有害要因の特定と除去・低減
- 7 不安全行動災害防止へ現地KYの実践
- 8 日常改善活動から全社・協力会社合同事例発表会
- 9 安全衛生監査の実施とシステムの見直し
- 10 協力会社との一体化活動と職長評価

全社安全衛生管理基本方針

中日建設株式会社

安全衛生管理基本方針

基本理念

中日建設は人間性を基本理念とし、公衆災害・労働災害防止の確保は企業の本務であること認識し、安全で働きやすい職場環境の向上を目的とし、不断の努力を続ける。

基本方針

中日建設は安全衛生管理充実のため、安全衛生と施工の一体化を促進し、継続的な安全衛生水準の向上を図る。

目標

公衆災害・労働災害の発生（ゼロ）を目指す

重点施策

1. 安全衛生と施工の一体化により、計画段階を含め社内協力を促進し、現場から安全衛生を追求する。
2. ツイン管理を主軸に、スタッフ部署との役割を明確化し、職務的な責任管理体制を確立する。
3. 協力業者の自主的・自主的な安全衛生活動を支援することで、元請と協力会社が協働・協働し「委員会制」の安全衛生管理活動を推進する。
4. 厚生労働省指針に基づき、建設業労働安全衛生マネジメントシステムを策定・運用し、予防安全の確立に向け継続的な改善を図る。
5. 全社単位・現場担当者との長編と短編の両面のため、教育計画を策定し、自律的な人材の育成を図る。
6. 公衆災害・現場災害を及びその事故と、一人一人の心身の健康と、迅速な対応を促すべく定期的に職務的な職務性職務等の防止を図る。

中日建設株式会社
代表取締役社長

高木 一 亮

はじめに

当社のCOHSMS導入・構築と特徴

2005年1月、当社は「建設業 労働安全衛生マネジメントシステム (COHSMS:コスモス)」の実施運用を開始します。このシステムは、当社が過去に培ってきた、安全衛生管理活動の流れに沿って、全体の活動内容を見直し、改善を加えて、体系化したものです。

その特徴としては、

【特徴-1】

●社内で従来から実施している、「施工計画検討会」に、当該工事に於ける、危険有害要因について、作業所の固有条件を、十分に把握、検討、それを評価した「特定シート」を提出し、メンバー全員の合意で「特定」します。

●特定した項目について作業所で協力会社が実施する「作業手順書」に展開し、危険有害要因を除去・低減させる項目を評価・特定します。更に具体的対策、責任者を決めて、重点的な取組をすることで災害防止をはかるものです。

【特徴-2】

●建設業の特性である、単品生産、屋外作業、高所作業、移動作業、重層下請等の中で現場施工を実施する条件下では、安全衛生管理及び本質安全化には限界があり、作業員一人ひとりの安全意識の向上及び危険有害意識の持続が、不可欠であります。その対策として従来から実施してきた、現場での危険予知 (KY) 活動を改めて、「現地KY」(1人ひとりが自分の危険ポイントを定めて指差呼称する) 活動に移行しました。人間特性である不安全行動の防止に役立ち、ヒューマンエラー・災害の減少が期待されます。

【特徴-3】

●全作業所でのシステム実施運用については、マニュアル及び要領書の手順に従って、安全管理活動を具体的に実施し、その結果及びプロセスを、「重点施策実績報告書」として、全作業所がまとめ、「内部監査」に於て、評価、確認し、改善に結びつけます。その一環として「全社、協力会社、合同改善事例発表会」を定期的に開催し、好事例は「水平展開シート」にまとめ、社内及び協力会社に配布、周知、全体の協調体制の強化につながります。

2 建設業労働安全衛生マネジメントシステムとは

◆建設業労働安全衛生マネジメントシステム[COHSMS:コスモス]とは？

建設事業所に於る、安全衛生管理活動をシステム(仕組み)としてとらえ、事業者が労働者の協力の下に「計画(Plan)→実施(Do)→評価(Check)→改善(Action)」を定め、組織的にかつ継続的に実施する自主的な安全衛生管理活動を促進して、事業所における安全水準の向上を図るものです。

建設業のCOHSMS(コスモス)は？

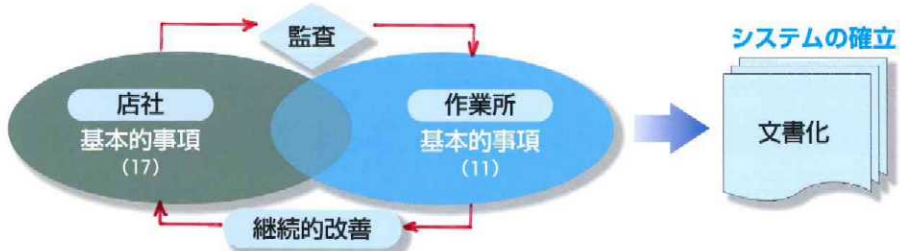
C : Construction
O : Occupational
H : Health
and
S : Safety
M : Management
S : System

の頭文字COHSMSです。



◆建設業労働災害防止協会の建設業労働安全衛生マネジメントシステム・ガイドラインのポイント

- [1] 基本的な考え方：自主的取組と店社・作業所の一体化活動
- [2] ガイドライン特徴：システム確立と基本的事項のPDCAサイクル



- [3] 効果：効率化・適正な評価・人材育成・社会的信頼性の確保

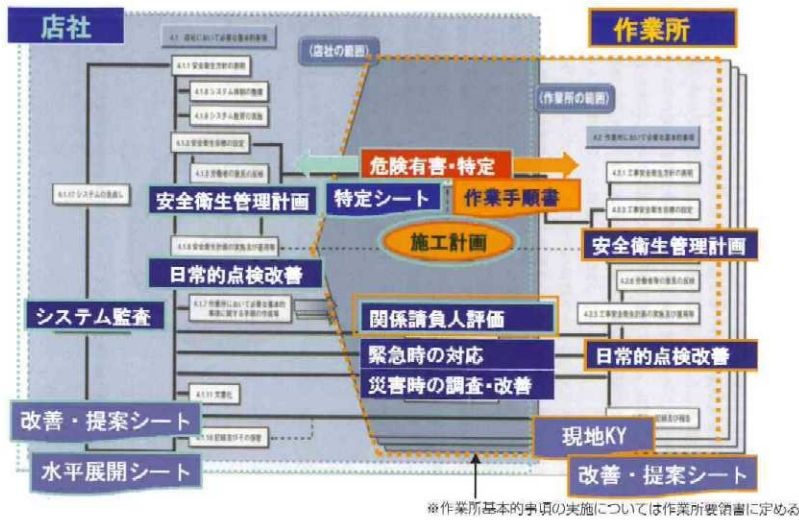
ガイドラインは建設業の安全衛生管理に必要な統一な基本的事項

店社17項目 作業所11項目 をとりまとめたものです

4 システム概要とシステムの文書体系

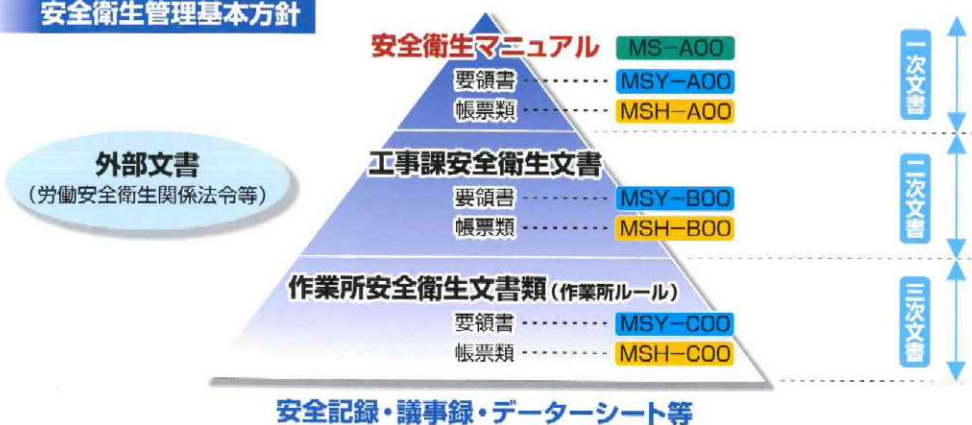
◆システム概要と本社（全社）と作業所の**基本的事項**の関連

当社は官庁関係の工事比率が高く従来から「施工計画検討会」に重点を置いた本社・作業所との安全衛生管理活動の基本的実施事項について検討、調整が実施されている。



◆当社システムの**文書体系**

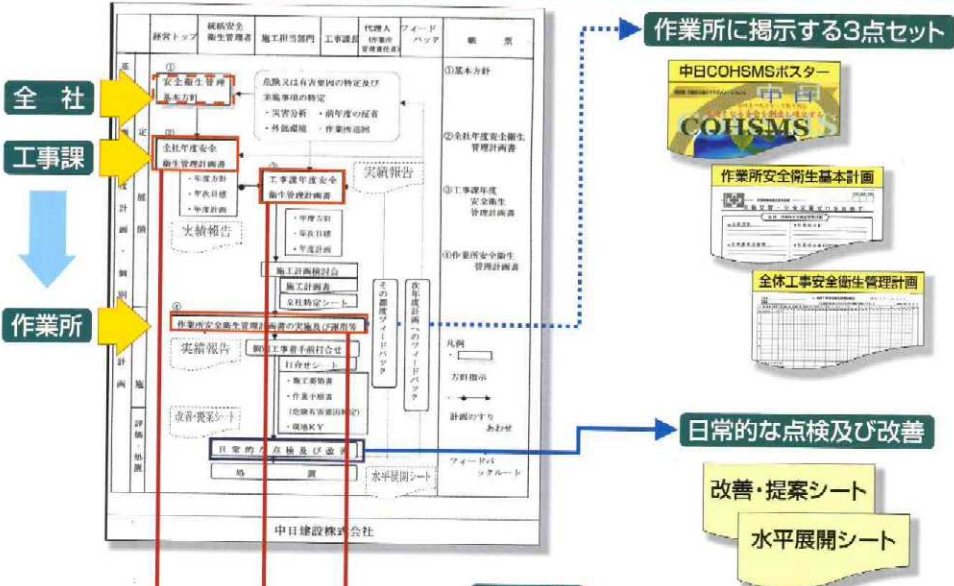
安全衛生管理基本方針



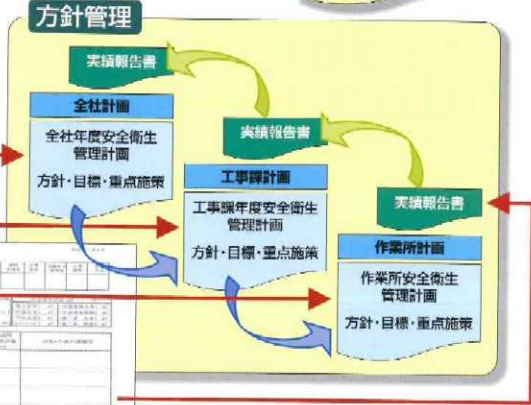
作業所帳票類は従来から「施工計画検討会」で使用してきた施工計画書の提出書類を中心にまとめたものと、監督署関係提出書類・協力業者提出書類関係・各種点検表用紙が含まれています。

5 方針管理の仕組みと日常改善活動

◆方針管理の仕組み



◆計画の実績評価報告書



6 危険有害要因の特定と除去・低減

◆ 全社危険有害要因の特定と除去、低減

危険有害要因の特定とは！

全社危険有害特定

特定の4工事（工種）

シートNo	工事名	適用範囲
1	道路・橋梁工事	道路、橋梁、歩道及び歩道橋等特定工事
2	河川工事	運河、河川改修等特定工事
3	橋梁工事	橋梁、トンネル等特定工事
4	上下水道工事	水道、下水道等特定工事

COHSMSの危険有害特定 評点

1 社内災害の分析	死亡災害：20 重大災害：6 休業（重）：4	休業（軽）：2 不休災害：1 26件
2 社内ヒヤリハット	ヒヤリハット	：0.3 345件
3 社内パトロール	パトロール指摘件数	：0.1 747件
4 愛知県土木工事	死亡災害件数	：1.0 100件

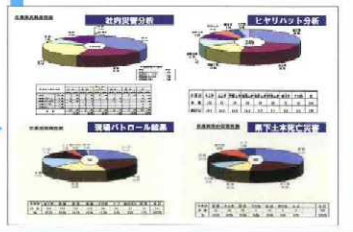
4. 工事の危険・有害要因の評価
確定済み（道路・河川・橋梁・上下水道）

作業所特性評価
修正後合計
最終順位
特定
作業所特性

危険有害要因（調査・分析）

作業所における危険有害要因の最終特定

作業所の「施工計画検討会」で、現場の個有特性を評価し、決定する



◆ 作業現場危険有害要因の特定と除去、低減

現場危険有害特定

COHSMS・作業手順改善点

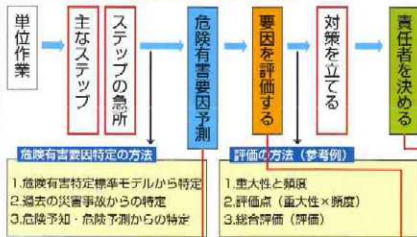
1. 文書と絵で表現
2. 手順・急所・危険要因・重大性・頻度・評価・防止対策・担当等
3. 役割・担当区分を明確

災害防止・実践用

5-3 作業手順に評価を組込む

危険有害要因特定の手順

在来の作業手順



作業手順書（標準シート）

No	作業名	適用範囲	備考
0	玉掛け	及び資材荷降	
1	[道路] 舗装作業	アスファルト舗装関係	
2	[河川] 矢板締切作業	矢板、仮締切作業	
3	[橋梁] 下部工構築作業	下部工の関連作業	
4			

危険・有害要因の特定
重大性・頻度の評価、総合評価
誰が…責任者の氏名

13項目のモデル標準シート作成済

7 不安全行動災害防止へ現地KYの実践

◆不安全行動災害防止について

人は誰でもミスをおかす.....建設作業所では 建設業の特性を考慮すると本質安全化や管理・設備面の対策だけでは 人の命は守れない。作業所で働く作業員一人ひとりが、現場は危険、有害要因が多く存在することを自覚し「自らの命は自らが守る」と言う意識のもとに、当日の作業予定、作業行動中での危険要因を自ら現場で点検確認し、自分に対する最も危険なポイントとして決め、それに伴う行動目標を自ら〇〇を〇〇するヨシと指差呼称する(従来の集団KY→個人KYに移す)

作業員・1人ひとりの行動災害を未然防止

在来型

月	危険予知活動報告
日	
集団	
私達はこうするヨシ	
行動目標……ヨシ	



改善型



[現地KY実施] (1)危険予知活動報告書 中日建設株式会社
氏名 作業内容 危険ポイント 行動目標 署名
.....ヨシ

個人

私はこうするヨシ

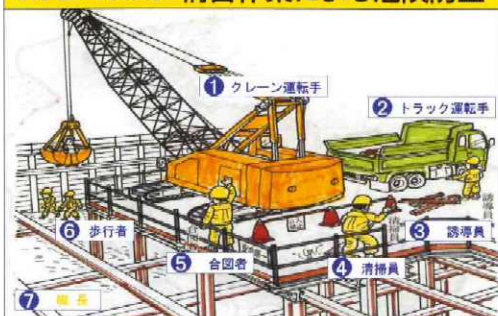
行動目標……ヨシ

◆現地KYの実践

COHSMSの危険有害特定

- | | | |
|----------------|--------------------|-----------------------|
| 1 朝の挨拶(大声で) | 4 ひとり一人の行動目標〇〇〇〇ヨシ | 7 シュプレヒコール(タッチアンドコール) |
| 2 健康確認 | 5 全員が順番に、3,4を行う | |
| 3 ひとり一人の危険ポイント | 6 職長が全体をまとめ発言 | |

[現地KY演習] 構台作業による危険防止



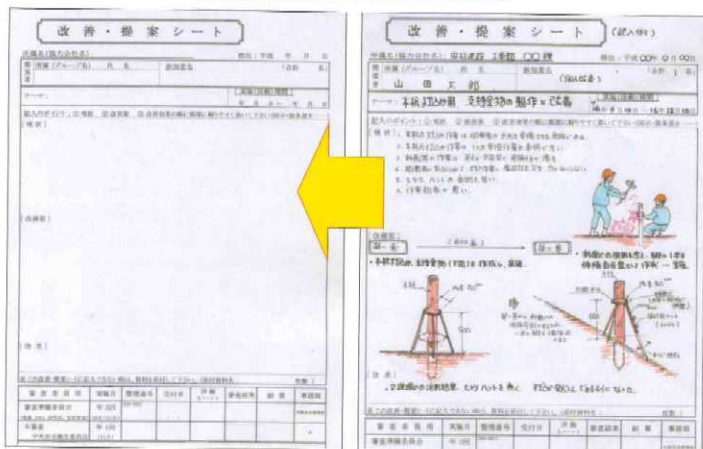
[現地KY実施] 危険予知活動報告書		中日建設株式会社		
実施日	場所	主任者(班長)	班長(班員)	
H.....C.....				
no.	氏名	作業内容	危険ポイント	行動目標.....ヨシ(特記事項(注))
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
合計		名		
備考				

8 日常改善活動から全社・協力会社合同事例発表会

◆日常改善活動への取組

日常の現場作業における有効性の高い、個人レベルの創意工夫・改善内容を全社員及び協力会社に水平展開し、社有技術として会社全体の安全、施工のレベルアップにつなげる。

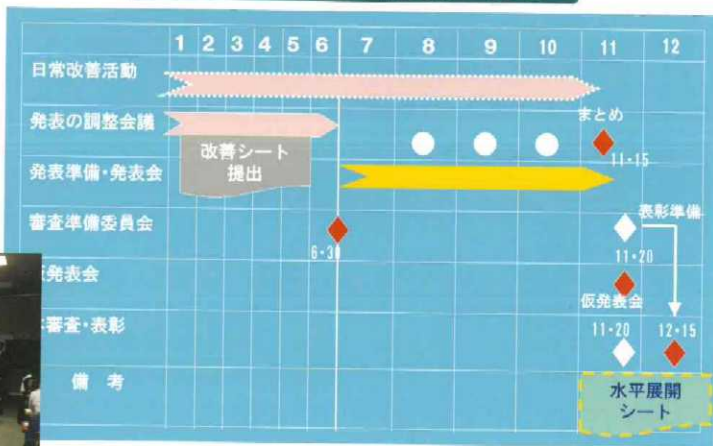
改善・提案シート活用事例



水平展開シート

◆全社・協力会社、合同事例発表会の開催

改善・提案シートから事例発表へのフロー

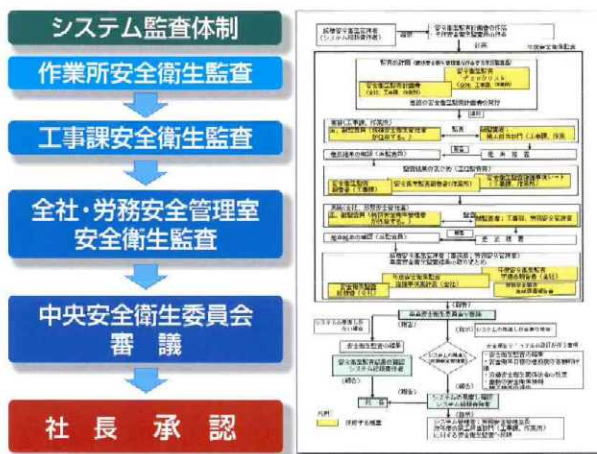
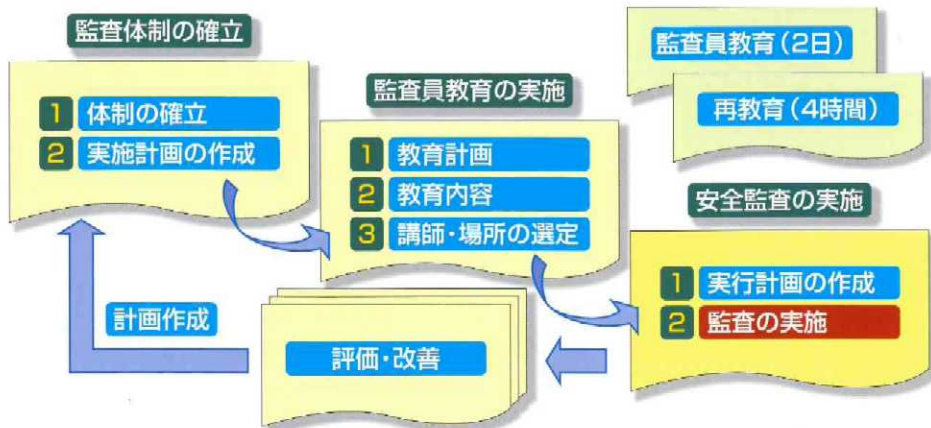


(事例発表会)

9 安全衛生監査の実施とシステムの見直し

◆安全衛生監査（システム監査）の実施

安全衛生監査の目的は、COHSMS、ガイドラインに基づいて、当社が自主的に確立した中目COHSMSの、システム確立状況と、実施運用状況を、社内の有資格者による「安全衛生監査」として定期的に実施し、システムの維持・改善を行い、同時にシステム全体の見直しを実施するものです。



◆システムの見直し・改善

統括安全衛生管理者（工事本部長）並びに社長は安全衛生監査の結果をふまえ、安全方針、安全目標の達成度及びシステムの実施、運用状況、関係法令の改正等も踏まえ、定期的にシステムの見直しを行います。（年1回を予定）

10 協力会社との一体化活動と職長評価

◆ 協力会社との一体化活動の主な内容

- | | | |
|---|---------------------|------|
| 1 | 年度安全衛生推進大会 | 年1回 |
| 2 | 中央災害防止協議会 | 毎月1回 |
| 3 | 協力会社合同パトロール | 毎月1回 |
| 4 | 協力会社・代表者安全衛生講習会 | 年1回 |
| 5 | 職長・安全衛生責任者教育 | 年1回 |
| 6 | 安全衛生責任者教育 | 年1回 |
| 7 | その他・各種教育支援及び協力会行事支援 | |
| 8 | 年度会社・協力会社合同改善事例発表会 | |



(職長・責任者教育)



(発表) : 現地KY



(安全衛生推進大会)

◆ 職長評価

当社は協力会社の「施工能力評価」はISO 9001で実施しているため、今回の中日COHSMSでは

「職長評価」として、①職長・施工及び安全衛生管理能力評価

②職長の適正能力評価

について施工完了時に職長評価を実施し、「A」「B」「C」の3ランク評価別にまとめることになっている。



評価による適正な指導、教育の実施



中日建設株式会社

本社 / 名古屋市中区橘一丁目1番20号 〒460-0016 ☎(052) 321-6501